

## 感染症・予防接種レター (第35号)

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会では「感染症・予防接種」に関するレターを毎号の小児保健研究に掲載し、わかりやすい情報を会員にお伝えいたしたいと存じます。ご参考になれば幸いです。

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会委員長 加藤達夫

予防接種・感染症委員会

委員長 加藤 達夫    副委員長 岡田 賢司    庵原 俊昭    宇加江 進    古賀 伸子  
住友眞佐美    多屋 馨子    馬場 宏一    三田村敬子

## 子育ての基本

### — 育み、育まれた経験を次世代へ —

わが国の予防接種は、義務としてではなく被接種者の自発的な希望と努力が前提で実施される。その内、「定期」の予防接種 (BCG, ポリオ, DPT, DP, 麻しん風しん混合, 麻しん, 風しん, 日本脳炎, インフルエンザ) は、期間 (年齢) を定めて市町村が行う公費接種である。平成18年4月1日から新しく登場した麻しん風しん (MR) 混合ワクチンが「定期」に加えられたことに伴って、麻疹と風疹に係るワクチンの対象年齢が、改正前の (1歳~7歳5か月に1回) 接種する方法から、改正後は (1期: 1歳に1回) と (2期: 就学前の1年間に1回) の計2回接種する方法に変更された。2回接種法により、より長期の (生涯を通じての) 予防効果が期待できる。麻しん風しん (MR) 混合ワクチンの新規導入と、接種期間 (年齢) の変更は、市町村が広報紙あるいは個別に通知している。現時点で最も注意すべき、麻疹と風疹に係るワクチン (2期) の対象者は、平成19年4月に小学校への就学を予定している者である。これらの者は、平成19年3月31日までに2期の接種を済ませておかないと、それ以降は定期外 (任意) の接種となる。

最近 (平成18年11月)、筆者が校医を務める校区で行われた就学时健康診査時の調査によると、麻疹と風疹に係る2期の接種を済ませていない者が全受診者の6割に達していた。しかもその中の1割の者は、麻しんワクチン, 風しんワクチンを含む乳児期に受けるべきその他のほとんどの予防接種を受けていなかった。同伴していた保護者との面談中、これら「接種の遅れ」

が目立つ者に共通していたいくつかの特徴に気付いた。①乳児期に受けるべき健康診査をほとんど受けておらず、したがって身長・体重曲線の記録がない。②突発性発疹の既往が曖昧。③自らが信頼しているかかりつけの医師がいない。④明らかなアトピー性皮膚炎などの皮膚症状に対する病識が希薄で、治療がしばしば中断している。⑤母子健康手帳を紛失しており、再発行を受けていない。⑥朝食をきちんと摂らせていない等である。

これらの保護者と面談して感じることは、子育てに関心がない筈はないにしても子育てを楽しんでいる風には見えない面—たとえば、子育てについて話しかけても、多くを語ろうとしない、迷惑そうな態度をとる、多忙で落ち着いた様子を見せる—等が見て取れる。

「子育て」には、楽しいことばかりではなく、困難も伴う。それでも子どもと過ごす時間を十分とり、「子どもの身になって考え、見守り、共に行動する」覚悟さえあれば、自信をもって子育てを楽しめる筈である。しかし、今日の多くの家庭の実情は、子育てを楽しめる状況にない。すなわち、両親共働き、核家族、少子化が「子育ての基本」となる親にしかできない (子育てのマニュアルにはない!) 家庭教育の在り方について、親が学習する機会を少なくしている。

大阪府健康福祉部は平成18年3月に冊子「乳児期の虐待予防のための視点—子育てしやすい社会づくりのために医療関係者ができること」を発刊し、その中で、虐待死亡事例の約4割が乳児期に集中していることから、「養育力の不

足」に着目した取り組みの,特に乳児期の疾患,健診等を契機に受診してくる親(保護者)への医療関係者による支援の重要性を述べている。

NPO 法人大阪新興・再興感染症対策協議会(NPO-OSS:代表 栗村 敬)は,厚生労働科学「予防接種と健康教育の研究班(省略)」(協同研究者代表 平山宗宏)班員(馬場宏一,岡部信彦,加藤達夫,平山宗宏ら)の協力を得て,予防接種率の向上を図ると共に,保護者に,「子育ての基本」を学習してもらう新しいシステムを構築したいと考え,次に示すような養育支援(保護者に子育ての基本を学習してもらう)計画を立案した。

### 「子育ての基本」と予防接種率向上計画

#### 基本理念と定義

「子育ての基本を学習すること」とは,理想的な家族と子育てのモデルを追求することではなく,子ども達の健やかな心と身体の発育を願う,ごく普通の親(保護者)が,家庭と地域社会に於ける基本的な知識,判断,行動,心情などについての望ましい在り方に気付き,共感(感情移入)できる感性を養い,子ども達と共に自らの価値観,自尊心を育むために,実生活に於いて豊かな経験,体験を積み重ねるよう努めること,とする。

#### 方法と目的

簡便で汎用性の高いアンケート方式による「子育ての基本(ポイント1~30)」(次頁参照)に対する共感度(A・B・C)のチェック法を開発し,これを共用する医療機関,市区町村,教育委員会(学校)などによる相互の連携下,子育て中のすべての親(含妊婦)を対象に本法を活用することによって,例えば感染症予防の重要性や,「しつけ」の望ましい在り方などに気付け,共感させることができれば,それぞれの親が自らの価値観に基づいて健やかな家庭生活,社会生活の実現に向かって努めること(結果として,集団感染や集団によるいじめの予防)が期待できる。

医療機関での実施に際しては,診療の待ち時間に前述のアンケート用紙(別紙)を配布(Bの鉛筆と消しゴムに下敷も添えて)すれば,10

分間以内に回答を得ることができる。共感度の低いポイント(B・C)については,親が実現または実感できるよう,医師やスタッフ自身が「子どもを育て,あるいは育ててもらった経験」をもとに親を支援し,助言する。アンケートに答えることによって親が気づき,医師またはスタッフのアドバイスを受けた親がその記憶を手許に残すために葉「子育ての基本:健やかな身体を育む3か条(生活習慣・地域情報・信頼関係) / 健やかな心を育む3か条(個の尊厳・地域に暮らす・安心,安全な福祉社会)」を作製した。例えば,チェックポイントNO.11が(B・C)の場合は,MR(混合)ワクチンについて説明すると共に,地域情報の入手方法・母子手帖の活用法についても説明者の経験などを交えて教示する。

筆者のクリニックでは,子育ての経験の少ない保護者の相談役として地域のシルバー人材センターに,孫があって就労経験を有する“おばあちゃん”の派遣を依頼した。クリニックの“おばあちゃん”には,保護者の居住地,家族構成,両親の就労状況,子育ての苦労や楽しさ,地域の生活情報などについて,時間をかけてゆっくり会話してもらっている。そして,保護者には“おばあちゃん”の知恵を参考に自らのそれまでの生活を尊重しながら健診や予防接種への受診,地域の人々との交流に努めてもらいたいと考えている。

もし,読者の中で,本アンケートと葉を子育て中の親(保護者)に使用される場合は,必要部数と送付先を(馬場宏一:特定非営利活動法人(NPO)法人大阪新興・再興感染症対策協議会(NPO-OSS)事務局ばば小児科内,住所:〒571-0046 大阪府門真市本町43番38号,電話:(06)6902-8770 FAX:(06)6902-8771)にFAXしていただければ,1週間以内に郵送可能です(アンケート用紙100枚と葉100部のセットの価格は郵送料を含めて1,500円ですが,若し回答用紙を返送していただける場合は,100セットまで無料です)。

本協会会員のご協力を得て,本システムが子育てする親の支援となり,子ども達の心身の健康と,予防接種率の向上に少しでも貢献できればと念じる次第である。(文責:馬場宏一)

保護者の皆様へ

「子育ての基本」に関するアンケート  
ご自分の実生活（ご家庭）についてお答えください（チェックポイント1～30）

「子育ての基本」(チェックポイント1～30)は、子育て中の親の誰もが経験する日常生活そのものについて述べています。①文章の内容のようでありたいと願っていて、しかも実生活でも実行(実現)している→共感できる場合は□Aを、②文章のようでありたいと望んでいるが、実際とはちがう(実感に乏しい)場合は□Bを、③文章の内容に“ピン”と感じるものがない、無関心またはストレスのため共感(感情移入)できない場合は□Cを、項目毎に示した、それぞれの□内を塗りつぶしてお示しください。 (良い例 ■, 悪い例 ☒ ☓ ☔)

- |    |   |          |
|----|---|----------|
| 1  | 子どもの体調の善し悪しは、睡眠、食欲、排便(尿)、顔色、機嫌などから判断することができます。  | □A □B □C |
| 2  | 子どもには朝食をきちんと食べさせています。食後は少し時間をおいて排便を促します。  | □A □B □C |
| 3  | 我が家では食後歯みがきをしているので子どもには虫歯が1本もありません。口腔内の清浄は健康の基本です。  | □A □B □C |
| 4  | 家族と一緒に楽しむテレビ番組があります。一緒に笑ったり、泣いたりする場面があります。  | □A □B □C |
| 5  | インフルエンザの流行期には、1人がかかるとまわりの皆が迷惑しますから、なるべく人ごみをさげ、マスクを着用し、外から帰ったら手洗いうがいをします。  | □A □B □C |
| 6  | 子どもが好んで着る衣服を知っています。好物の食べ物や遊びも知っています。  | □A □B □C |
| 7  | 子どもは日々成長しており、楽しみながら家族で身長や体重を計測することがあります。  | □A □B □C |
| 8  | 子どもの成長ぶりや、言動に 感心したり、感動させられたりすることがあります。  | □A □B □C |
| 9  | 妊娠中は、妊婦健診を少なくとも月1回以上受けるように指導されました。  | □A □B □C |
| 10 | BCGと、ポリオと3種混合(DPT)ワクチンの少なくとも1回ずつは、1歳までに受けさせました。   | □A □B □C |
| 11 | 新しく登場した麻しん風しん(MR)混合ワクチンは、1歳に1回と、小学校入学前の1年間に1回の計2回受けることになったことを市区町村が発行している広報誌を読んで知りました。                             | □A □B □C |
| 12 | 子どもには、公費の予防接種(BCG、ポリオ、DPT、MR混合ワクチンなど)を優先的に受けさせ、自らの判断と費用が必要な任意のワクチン(インフルエンザ、水痘、おたふくかぜなど)については、かかりつけ医と相談して決めるつもりです。 | □A □B □C |
| 13 | すすんでお手伝いしてくれたときは、言葉で「ありがとう」と言ってごほうびやおこづかいをあげるときもありますが、初めから、お金や物を与えることを条件に、子どもに手伝いや仕事を頼むことはしたくありません。               | □A □B □C |
| 14 | 大人同士(夫婦間)のもめ事や悪口は、子どもに聞かせないように心掛けています。  | □A □B □C |
| 15 | 子どもはお互いに友だちの家に行ったり、連れてきたりしてよく遊びます。友人の名前と家族も知っています。  | □A □B □C |
| 16 | 自分の子どもが他人に迷惑をかけたら、保護者(親)である私も責任を感じ、子どもと一緒に謝ります。   | □A □B □C |
| 17 | 旅行などでしばらく家を留守にする時は、知人や近所の人に声をかけてから出かけるようにしています。   | □A □B □C |
| 18 | かかりつけの小児科医には、身体の具合だけでなく、心の悩みなどについても気軽に相談することができます。  | □A □B □C |
| 19 | 子どものことで困ったこと(病気かな? 思うように育てられない! 育児に疲れて眠れない! など)があれば、気軽に(電話などで)相談できる両親や兄弟姉妹、友人や知人、かかりつけの小児科医などが近くにいます。             | □A □B □C |
| 20 | いかなる場合も暴力や暴言は絶対にいけません、強い口調の命令や視線も子どもをおびえさせ、心に傷を残すことがあります。わが家では子どもを大声で叱らないよう心掛けています。                               | □A □B □C |
| 21 | 子どもには、他と比べるより、自分自身と家族の良いところに気付かせるよう話します。  | □A □B □C |
| 22 | 子どもは、子どもなりに小さなストレスを解決(消)しながら日々成長しています。子ども独りの力で解決できないで悩んでいるときは、大人の助けが必要です。決して放置してはいけません。                           | □A □B □C |
| 23 | 子どもは、毎日その日あった出来事を話してくれます。子どもからの訴えは真剣に聞いてあげます。   | □A □B □C |
| 24 | 「しつけ」には、なるべく子どもの良い面を見つけて、ほめてあげます。良くない面は優しい言葉でその理由を理解してくれるまで説明します。良くない面が改善されたら、ほめてあげます。                            | □A □B □C |
| 25 | 子どもが、自分より年下の子どもや小動物をいじめたり、むやみに草花や昆虫を傷つけていたら、いけない理由を言って止めさせます。   | □A □B □C |
| 26 | 子どもと一緒に公園や道路など地域の清掃ボランティアに参加したことがあります。  | □A □B □C |
| 27 | 季節の行事(盆踊り、だんじり祭り、運動会、授業参観など)には子どもたちと一緒に楽しんで参加します。   | □A □B □C |
| 28 | 同じ年頃の子どものもつ家族間では、子育ての苦労や楽しさなど、子どもの話題がよく出ます。   | □A □B □C |
| 29 | 子どもの事故を防止するため、子どもを危険物から遠ざけています。(タバコ、マッチ、ライター、ボタン電池、くすり、ポットの湯、調理器具、暖房器具、化粧品、洗剤、殺菌・殺虫剤、浴槽、乾燥剤、保冷剤など)                | □A □B □C |
| 30 | 高齢者や障害のある人に席をゆずったり、手をつないであげたり、ドアを開けてあげたりしたことがあります。  | □A □B □C |

ご記入者 (性・年代)	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/> 10歳代 <input type="checkbox"/> 20歳代 <input type="checkbox"/> 30歳代 <input type="checkbox"/> 40歳以上	お子様の 人数	<input type="checkbox"/> 1人 <input type="checkbox"/> 2人 <input type="checkbox"/> 3人 <input type="checkbox"/> 4人以上
----------------	--	------------	---